

第10回新城市若者議会

令和4年11月8日（火）午後7時00分から午後7時50分
新城市議会 議場

開 会 午後7時00分

1. 若者議会議長あいさつ

○瀬野和奏議長 若者議会議長の瀬野です。若者議会条例第6条第1項に基づき、本日の進行を務めさせていただきます。

ただいまから第10回新城市若者議会市長答申を行います。5月の第1回若者議会から私たちは、若者が活躍できるまちを実現するべく、様々な活動を行ってきました。8月の第6回若者議会では、政策中間報告を行いました。その後も担当課職員の方々からアドバイスや意見をいただきながら話し合い、令和4年度若者予算事業計画を策定いたしました。本日は、若者議会市長答申ということで、3つの事業を説明させていただきたいと思えます。

2. 事業報告

○瀬野和奏議長 初めに、交流委員会による「ヤングコネクト事業」です。お願いします。発表者は、長谷 和奏（ながや わかな）委員、森田 幸輝（もりた こうき）委員、今泉 翔帆（いまいずみ しほ）委員です。よろしくをお願いします。

○今泉翔帆委員 今から交流委員会「ヤングコネクト事業」について発表を行います。よろしくをお願いします。

私たち交流委員会は、実現したい新城市の未来として「市民同士が助け合えるまち～市民同士が助け合い、安心して住み続けられるまち～」を掲げました。

この未来を目指すにあたり、私たちは新城市の現状として、コロナやインターネットの普及により「日常的な交流が減っていること」が問題だと考えました。日々の暮らしや災害時での助け合い、そして安心して住み続けられるまちにするには、普段からの日常的な交流が必要不可欠だと考えたからです。

この問題を解決し、掲げた未来に近づける

ために、私たちは長期的な目標として、市民が「気づいたら日常的な交流ができているまち」を目指します。日常的な交流は気づかないうちに自然にできているものだと考え、そういうまちを目指していきたいと考えています。

そしてそのために、まずは私たちの身近な存在である若者に、交流の大切さや今地域にある交流などを知ってもらう機会を作り、交流の意識を持ってもらいたいと思います。そうすることで、若者を中心に交流が活性化され、地域での交流も当たり前ようになっていくのではないかと考えます。そして気づかないうちに日常的に地域での交流ができているまちになっていくと考えます。

以上のことから、私たちはターゲットを新城市民とし、中でも13歳～29歳の若者世代を対象に政策を考えました。

○長谷和奏委員 政策内容としては、情報発信ツール「ヤングほのか」を作成します。

「ヤングほのか」とは、広報ほのかとは違った若者目線で伝える「交流のきっかけ作り」になる広報雑誌です。同じ若者だからこそわかる若者が必要としている情報や、若者の視点に合わせた内容を伝えることができ、より親しみを持ってもらえるのではないかと考えます。また、若者に向けて地域で埋もれていた情報等を届けることも可能となります。

掲載内容としては、例えば地域のイベントやボランティア情報、挨拶啓発・防災情報などを主に載せていきたいと考えています。詳細については別紙（掲載内容（案））をご覧ください。新城市のイベントの情報やボランティア情報などを知らない若者に向けて届けたいです。

ページ数は8ページ、サイズは広報ほのかと同サイズを予定しており、写真も多く掲載するなど読みやすく持ちやすいものにしていきます。

更新頻度は8月号、10月号、1月号、4月号と年に4回作成します。

掲載方法についてはSNSや紙媒体を使って若者を中心に伝えていきます。紙媒体の配布場所については学校などの公共施設やコンビニ・駅を中心に設置します。ただ「ヤングほのか」を若者以外の方にも目に触れてもらうことで、世代間交流のきっかけになることも期待できるため、若者以外の市民が多く利用すると思われる場所にも設置する予定です。

○森田幸輝委員 掲載内容の詳細については今期の交流委員会で案を制作していきます。実際に来年度雑誌を制作していく際には、来年度の若者議会のメンバーに協力を仰ぐほか、ヤングほのかの制作に参加したいと考えている若者をヤングほのかで募集し、より色濃く若者の意見が反映されるように工夫する予定です。

ヤングほのかのメリットとしては、このヤングほのかの作成により、交流が促進され新たな繋がりが生まれると思われれます。

例えば、新都市に住む外国人との接し方を知ることによって、人と人との新たなつながりを作ることができます。また、イベント情報や交流の大切さを知った若者が、自ら交流したり、活動を起こすきっかけとなり、地域の活性化につながると考えます。さらには、ヤングほのかという情報発信手段ができることによって今まで気づかなかった新都市の魅力に気づき、市への愛着を持つことが期待されます。

最後に想定される費用としては、印刷製本費39万9千円を想定しています。

以上で交流委員会からの発表を終わります。ありがとうございました。

○瀬野和奏議長 ありがとうございました。自席にお戻りください。次に、教育・子育て委員会による「目指せwell-being

！プレコンで明るい未来を作ろう事業」です。お願いします。発表者は、丸山 綾加（まるやま あやか）委員、平井 緑空（ひらい りくう）委員です。よろしくお願いします。

○丸山綾加委員 これから教育・子育て委員会「目指せwell-being！プレコンで明るい未来を作ろう事業」について発表を行います。よろしくお願いします。

この事業では、将来の自分自身の幸せをテーマとし、新都市で安心して子どもを産んで育てることができること、それによって幸せに子育てができることを目的としています。なぜこのようになったかという、私たち若者は子どもを産む・育てるための知識や経験がなく、そこに至るまでの性教育も不足していると自分たち自身が感じるからです。この原因については、情報を得る機会として、学校では学ぶことに限界があること、インターネットでは信憑性に欠けることなどが挙げられ、このことが望まない妊娠や出産、中絶、ひとり親、DVにもつながっているのではないかと考えます。

この状況から私たちは、将来親となる若者が性教育を学べる機会を作る必要があると考えました。正しい知識を得るだけでなく、命の大切さにも触れることで、責任ある妊娠・出産へとつなげることができると思います。

そこで、私たちは2つの政策案を考えました。1つはお出かけ講座の普及、もう1つはイベントの実施です。

お出かけ講座については、既存で実施されている「命の授業」に加え、新設予定の「プレコンセプションケア」も取り上げています。命の授業とは、小学校から高校生までが、各年代に合わせた内容で命の大切さについて学ぶことを目的とし、プレコンセプションケアとは10代後半から25歳までを対象に、女性の生理や出産、妊娠を個人やパートナー同

士が考えながら自分たちの生活や健康に向き合っていくことを目的としています。

今回、お出かけ講座を普及するためのターゲットとしては、学校の先生、保護者、企業としており、お出かけ講座を依頼してくれる人を対象としています。普及方法は、お出かけ講座用の宣伝チラシを作成し、ターゲットとなる方にチラシを配布したり、説明会を実施したり、ターゲットとなる方が集まる場所へ出向いて、簡単な周知と説明会の告知を行ったりすることで、お出かけ講座がどんなものなのか理解してもらい、性教育の必要性やお出かけ講座の活用について周知していきます。説明会の開催方法は、現地会場とあわせて、オンラインでも参加できるようにすることを考えています。

○平井緑空委員 もう1つの政策であるイベントは「プレコンセプションケア」について行います。1つ目のお出かけ講座を普及する事業では、講座の開催依頼がない限り広めることが出来ないという欠点をかかえています。それに対し、この事業ではこちらからイベントを開催することで、プレコンセプションケアについて教える事ができます。ターゲットは概ね16歳から25歳までを想定しています。これはプレコンセプションケアがこの年齢を対象年齢としているからです。

このイベントの開催について、次年度はモデル事業として2回実施し、来場者数の変化などを調べた後、再来年度以降の開催に繋げていく予定です。また、1回あたりの規模は10人から20人程とし、文化会館での開催を検討しています。内容としては、プレコンセプションケアについて学ぶ座学の他、妊婦ジャケットや赤ちゃん人形を使った体験ができるようなものを計画しています。

2つの政策案の費用に関しては、消耗品費、印刷製本費、会場使用料を計上しています。消耗品費はアルコール消毒液や除菌シートな

どイベントに必要な消耗品で、1万9千円計上しています。印刷製本費は、お出かけ講座概要チラシと説明会開催チラシを学校と企業に配布する用、プレコンセプションケアイベントポスターとリーフレットを学校・企業の他、コンビニや駅など人が集まる公共施設に配布する用で、44万4千円計上しています。会場使用料は、イベントを実施する際に必要な文化会館の使用料で、6千円計上しています。

私たち教育・子育て委員会では、これら2つの政策案を実施することによって、新都市に住む若者が命の大切さや正しい知識を学べ、自分自身や相手の心身を守ることができ、将来の選択肢が広がると考えています。また、女性だけでなく、男性もお出かけ講座やイベントに参加することで、妊娠や出産、子育てを女性事ではなく、家族事と捉えるようになり、意識の向上・改善が期待されます。

その結果、予期せぬ妊娠等による貧困やDVを未然に防ぐことができ、安心して子どもを産み、幸せに子育てができるようになり、新都市で子育てをしたいという人が増えていくのではないかと考えています。以上で教育・子育て委員会の発表を終わります。ありがとうございました。

○瀬野和奏議長 ありがとうございます。自席にお戻りください。次に、観光委員会による「家族がつなぐ新城思い出事業」です。お願いします。発表者は、柏木 清吾（かしわぎ せいご）委員、石原 壮（いしはら そう）委員、藤井 成俊（ふじい なるとし）委員です。よろしくをお願いします。

○藤井成俊委員 観光委員会「家族がつなぐ新城思い出事業」の発表を行います。よろしくをお願いします。

私たち観光委員会は「世代を超えて何度も訪れたいまち」を目指し、政策を検討し

てきました。子どもの頃に新城を何度も訪れ、思い出をつくってもらい、それが子どもの頃の記憶として残ることで、子どもが大人になったときに今度は自分の子どもを連れて遊びに来てくれるという好循環をつくることを目的としており、最終的には移住や定住にもつなげることができたらと考えています。

まず新城市の観光の現状を把握するために、第2次新城市観光基本計画の策定に向けて実施されたアンケート調査を参考にさせていただきました。このアンケートにあった「あなたは愛知県新城市について知っていますか。」という質問では、新城市を5年以内に訪れたことがない愛知県在住の方のうち「知っている」または「名前だけ知っている」と回答した方は約92%であるのに対し、「愛知県新城市の観光資源で知っているものは何ですか。」という質問では約39%の方が「知っている観光地はない」と回答しています。また、1つ以上観光資源を知っている人の中でも湯谷温泉や鳳来寺山などと回答している方は比較的多いですが、知られていない観光資源も多くありました。

私たちはこの調査の結果から、新城市という名前は県内で十分に知られていることがわかりましたが、このまちの魅力を知っている人はまだまだ少ないと感じました。そこで、まずは近くのまちの人に新城の観光の魅力を知ってもらうことで新城の観光客を増加させるとともに新城を豊かにすることを目指します。

子どもに思い出をつくってもらうため、ターゲットは愛知県内と浜松市の子ども連れの家族としました。親に対してPRを行い、子どもを主体に楽しんでもらう計画です。子どもの年齢については、記憶が残りやすい小学校低学年くらいを想定しています。

○柏木清吾委員 今発表させていただいた目的とターゲットを軸とした政策として、私た

ちはYouTubeの動画広告機能を活用したPRの実施を提案します。

まずはスライドの表を御覧ください。これは総務省情報通信政策研究所が実施した「令和2年度情報通信メディアの利用時間と情報行動に関する調査」から引用したもので、主なSNSの利用率を年代別で表しています。この表から、他のSNSと比較してYouTubeの利用率が全年代において高いことがわかります。ターゲットである親世代にも利用者が多いため、多くの方に見てもらうことができます。LINEについても同じく利用率高いですが、LINEは情報を得る手段というよりは、あくまで連絡手段として利用されているものだと考えられます。この調査の結果から、スマホで情報を得る機会が多い現代において効果的なPRを行うことができるSNSを利用し、その中でもとくに利用率の高いYouTubeを活用するのがよいと考えました。

しかし、YouTubeには欠点があります。それは視聴者自らが検索等をして見ようとしなければ見られないということです。市のYouTubeチャンネルでもいくつか動画が投稿されていますが、その視聴回数は数百回から多いものでも9千回弱です。そこで、もっと多くの方に見ってもらうために私たちが考えたのがYouTubeの動画広告です。

YouTube動画広告とは、動画を視聴する前や途中で流れる広告のことです。これを利用することで、自ら能動的に見ようとしなければ見られない通常の投稿とは異なり、受動的に動画を見てもらうことができます。さらに、広告を流すエリアや年齢、興味・関心などをもとにターゲットを絞り込むことができるためピンポイントで新城市を知ってもらうことが出来ます。実際にこのYouTube動画広告は他の地方公共団体でも活用されている事例があり、例えば佐賀県佐賀市では2017年に最寄りの空港に直行便が就航

している国をターゲットに、約2千650万円を広告配信費として動画広告を実施しています。広告配信後に観光案内所で外国人を対象に行ったアンケートで23.7%の人が動画を見たことがあると回答していることから、実際に「来る」というアクションにも効果があると考えられます。

今回は小学校低学年の子どもを持つ愛知県と浜松市の親を広告のターゲットとして設定します。スライドの表が実際に広告業者の方にシミュレーションしていただいたものになります。今まで新城市で同様のSNS広告を実施したことがないことから、今回は試験的に目標視聴回数を20万回として配信を行い、今後の市でのSNS広告利用や新しい可能性にも期待できると考えています。

○石原壮委員 YouTub eの動画広告を実施するのに伴い、広告配信用の観光PR動画を作成します。新城市の観光スポットである新城総合公園、もっくる新城、山びこの丘を主として家族が楽しんでいる様子や新城市の良さが伝わる動画にしたいと思っています。新城市の観光資源のみを映した動画は既に市のYouTub eに投稿されていますが、より多くの人に最後まで見ていただけるよう観光資源の映像にプラスαとなるものを検討したところ、家族をテーマとした感動するストーリー仕立ての動画を作成することになりました。さらに、動画の中で子ども達が楽しんでいる様子を映すことで子ども連れの家族が共感しやすい動画となり、「新城市に子どもを連れて行きたい」と思っていたくことで実際のアクションに繋がられると考えました。動画の出演者については役者の方に依頼することも考えていましたが、多額の予算が必要となること、また、公開期限があることから市内で公募を行う予定です。演技をしていただくというよりは、純粋に楽しんでいる様子を映すことができたらと考えています。

次に市へのメリット・効果についてです。YouTub eで動画広告を行うことにより、半強制的に新城の広告を見てもらうことが出来ます。また、YouTub e広告はエリア、年齢、興味・関心などからターゲットを詳細に絞って流すことができるため、従来の広告手段よりも効率的かつ的確にターゲットに広告を届けることができ、家族連れ観光客の増加が期待できます。新城市としても初めての試みとなるため、今回の事業をきっかけとして今後の市のPR活動の新たな選択肢の1つとなります。さらに視聴データから効果などを検証することができるため、今後市でSNS広告等を利用する際に活かすことができます。

最後に想定される費用についてですが、YouTub e 宣伝広告委託費として百万円、観光PR動画企画運営委託費として15万千円となっています。

以上で観光委員会の発表をおわります。ありがとうございました。

○瀬野和奏議長 ありがとうございました。自席にお戻りください。

○松下市民自治推進課長 それでは、3つの事業の説明が終わりましたので、若者議会から市長に答申を行いたいと思います。若者議会議長は質問席へ、市長は演壇へ移動をお願いいたします。

3. 答申

○瀬野和奏議長 若者総合政策の実施に関する答申書。新城市若者議会は、若者総合政策の実施に関して、令和5年度若者予算事業計画を策定しましたので、新城市若者議会条例第2条第1号に基づき、以下のとおり答申します。令和5年度新城市若者予算予算総額2,019千円。

1. ヤングコネクト事業399千円。

若者を中心とした地域での日常的な交流の活性化を目的に、若者の交流が促進される情報を掲載した若者向け情報誌の作成及び配布を実施します。

2. 目指せwell-being!プレコンで明るい未来を作ろう事業469千円。

安心して子どもを産み、育てることができる新城市を目指し、将来親になる若者が性教育について学べる機会として、性教育に関するお出かけ講座の周知及びイベントを実施します。

3. 家族がつなぐ新城思い出事業1, 151千円。

世代を越えて何度も訪れてもらえる新城市を目指し、家族をテーマとした動画を作成し、動画共有サイトにおけるインターネット広告を配信します。

令和4年11月8日。新城市長下江洋行様。
新城市若者議会議長 瀬野和奏。

4. 市議会議長あいさつ

○瀬野和奏議長 それでは、続いてお忙しい中ご出席いただきました、長田市議会議長様からごあいさつをいただきたいと思います。

○長田共永市議会議長 ようこそ議場へ。

君たちの顔を見るのは久しぶりで楽しみに本日やって参りました。

そして、本日この中にもメンバーがおるんですが、有教館の生徒会に呼ばれて、有教館高校の後夜祭に行き、瀬野議長とツーショットの写真を撮りました。非常に気分は良いわけなんですけど、それで君たちの報告内容、答申をすべて、もろ手で賛成するとはいきませんので、改めてよろしくお願ひしたいと思ひます。

今日は442年ぶりの皆既月食と天王星食で、今天体ショーが行われております。その様子を今見られた方。まだそんな余裕がないと、そうした緊張した姿に私は好感が持てま

す。そして、次にその天体ショーが行われるのは322年後、2344年です。そうした中で442年前というのは、1580年です。1575年の長篠の戦い、1582年の本能寺の変、その後、当時の若者はどういった考えでいたんだろう。そして、322年後の2344年のこのまちの若者は、どんな姿でいるんだろう。そんなことを思いながら、この会場に来ました。

事業の個別の内容は、また各議員とお話する機会があると思いますが、1点ずつぐらいは少し講評のほうをさせていただきたいと思ひます。

交流委員会の皆様に提案していただいたヤングコネクト事業。ヤングほのかの作成ということでございます。若者というのは、いつの時代においても時代を担っていく中心の人物であることは言うまでもありません。例えば、川崎市において若者文化のまちづくり、そうした部分でまちづくりを進めていく計画があります。そんな中、ほのかという情報ツールを通じて発信するのであれば、若者文化、君たちは今何を考えている、そうした中で、若者らしい、例えば、様々なありきたりのことでもいいが、1点は好ましい若者、我々はこう思ってる、そんな部分を明確に出していただく嬉しいのかなというふうに思っております。

教育・子育て委員会の皆様、これは本当にデリケートな問題でございます。明るい未来を作るのは、先ほど言ったように君たちです。このまちが、そしてこの国に、大げさな言い方をすれば、この星が良くなるのも、君たち若者次第です。そうした中、明るい未来を作ろうということでございますが、今、正確な数字ではないのかもしれないが、17人に1人はヤングケアラーという負の部分もある。ヤングケアラーという言葉が君たちは知っているかと思いますが、そうした中で、そうした子どもたちは、当然学業にも影響があるし、

友人をつくれな。また、健康面も当然考えていかなければいけない。就職の機会も同じようにならないのかもしれない。明るい未来をつくるのにそうした考えを持つ一方で、そうした若者もいる。アンテナを広く、そのために明るい未来、どんな形でもいいが、作っていくように君たちなりにアンテナを広げてほしいと思います。

観光委員会の皆様でございますが、観光委員会というのは、観光というのは、もう若者議会において何度も出ている。料理の世界でこうした言葉があります。「まずい食材はない。それを料理する下手な料理人がいるだけだ。」それは市長のことで議長のことでない。それは、このまちに多くの観光資源がある、これを生かしてきてないのが、もちろん先ほど言ったように、市長のせいではないと言ったんですが、行政の責任かもしれないし、議会の責任かもしれない。そんな中、君たちなりにこのまち、そしてこの地域にある観光資源、若者らしい切り口で、日を当てて、日の当たる場所で、YouTubeという形でもいいし、まあどんな形でもいいですが、SNS、そうした形をとっていただければ幸いです。

また各議員とお話する機会があるかと思いますが、そのときにまたそれぞれの議員がお話をすると思います。君たちの考えた計画が実を結ぶように、まず心から祈ります。

改めて、最初にこの議場でご挨拶したときに、新城における若者条例、若者議会条例というのを読んでほしいと、改めて目を通してほしいと、議長からお願いしたいと思います。若者議会条例。この目的はもう皆様読んでいただいているので十分わかっているかと思いますが、どのまちにおいても、君たちは資源であり、財産です。そんな中で、改めて言いたいことは、それぞれの委員会の計画が、もし議会で否決された、予算がつかなかったら、クラウドファンディング。例えば、キャンプ

ファイヤーを、手法でも何でも結構です。そうした形でもやっていくんだという心意気ぐらいは持っていてほしいと思います。

そして、最後にしますが、市民の権利に、これも最初にお話したように、陳情と請願というふうに方法があります。議会に対する、これは市民から、当然、権利として出せる手法の一つですが、ぜひですね、議会のそれぞれの常任委員会に堂々と陳情、そして請願という形でぶつかってきてほしいと、そんな思いを持ちながら、本日の歓迎のあいさつとしたいと思います。

本日はありがとうございました。

4. 市長あいさつ

○瀬野和奏議長 ありがとうございます。最後に、下江市長からごあいさつをいただきたいと思います。

○下江洋行市長 先ほど、瀬野議長から交流委員会、教育・子育て委員会、観光委員会の3つの事業が記載されました令和5年度新城市若者予算事業に関する答申書を受け取りました。5月に始まりました、所信表明から始まりました若者議会で、これまで皆さん熱心に協議、検討を重ねてくださりまして、皆様のそうした思いが詰まった答申として、しっかりと受けとめさせていただきます。

また、答申書と同時に、今この議場で皆様からは各事業についての説明も聞かせていただきました。

まず、はじめの交流委員会による「ヤングコネクト事業」でありますけれども、皆様がお住まいの地域、また市内の各所で日常的な交流を促進させるために、まずは皆様の身近な同世代の若者に目を向けまして、若者から交流を活性化してもらおうとする事業であったと思います。これは、皆様若者だから感じている視点、また欲している情報、それが必ず活かされる事業だと感じました。それぞれ

の地域の皆さんの、また皆さん若者同士の助け合いや支え合いもまずは交流から始まると思います。交流のきっかけづくりとして、性別、また年代、そして国籍を越えた交流のきっかけづくりとして、このヤングほのかが役立つことを期待しております。そして、このヤングほのかでこの教育・子育て委員会による事業、また観光委員会による事業もしっかりとPRしていただいて、3つの事業が有機的に発展していく、実行されていく、そういうことも併せて期待しております。

次に、教育・子育て委員会による「目指せwell-being！プレコンで明るい未来を作ろう事業」です。新城市に住む皆様、そして若者が安心して子どもを産み、育てることができるように、まずは命の大切さ、尊さ、また男女の体の仕組み、自分、相手を守ること等の性教育について正しく学べる機会をつくろうという事業だと思います。自分自身の将来の幸せのためにも、このテーマに基づいて、まさに皆様若者が将来幸せに暮らしていくために何ができるのか、そういうことと向き合ってきた事業だというふうに思っております。性についての正しい知識は必要ですし、皆様の家庭でも、ごく普通の家庭でも、学校でも性のことが普通に話せる、そういう環境が必ず必要だというふうに思っております。東三河の小学校、中学校、義務教育で性教育について産婦人科の先生が授業を行っている、そんな学校もごございます。皆様が性、性教育に、また安心して子どもを産み、育てることができるようなまちづくりのために、こうした着眼点で事業を考えてくださったことに大変ありがたく思います。そしてプレコンセプションケアなどのお出かけ講座の普及など、斬新な取組が皆様若者の将来への希望と自信につながることを大いに期待しております。

最後に、観光委員会による「家族がつなぐ新城市思い出事業」です。着眼点が大変おもしろ

いなど、いいなというふうに思いました。子どもの頃に新城でつくった思い出、私も思い起こせば、家族と静岡県の伊豆に小学校のときに行った思い出は、もう一生忘れられない、自分にとってはもう宝物のような思い出であります。そうした経験を、思い出づくりを家族で、この地でしてもらおうという1つの仕掛けを考えてくれた、このアイデアに大変感心しました。そして、今まで市では行ったことがないSNS、YouTubeの動画広告という手法、これで新城の観光PRをしようという、ある意味1つのテストケースになるのかなというふうにも思います。大変期待もしてますし、注目をしております。この新城市は、ジブリパークが開園したばかりでありますけれども、まさにジブリの世界感を本物の大自然の中で体感できる、そうした素晴らしい自然があります。そんなことも念頭に置いて、このYouTubeの動画を作る際に、アイデアを、知恵を絞っていただけたときと良いものができるのではないかなというふうに思いますし、何よりも動画を作る作業大変楽しいんじゃないかなと思います。皆さんがこの地域の良さを、この動画を作る作業で、再発見したり、また新しいこの地域の価値に気づいたり、そんなことを、そんな経験を重ねながらできた動画は、大変良いものになると思いますし、皆さんにとっても、貴重な経験になるというふうに思います。そして、最後になりますけれども、このターゲットと観光委員会によりますこの提案につきましては、ターゲット、そして年代も含めて、そしてエリア、浜松市ということでごございます。そうした具体的に、漠然とやるのではなく、ターゲットを絞ってやるというところに成果があらわれるかどうかははっきりと結果が出るのかなというふうに思っておりますので、ぜひ期待をしております。頑張ってください。

いずれの、今、3つの事業も皆様若者がこのまちをより良いまちにしたいという思いで

作り上げてくれたものであるというふうに思います。新城市には、若者である皆さんの力が必要です。これからも市のために共に力を合わせてまちづくりを進めていければというふうに私も思っております。

また、今年度も新型コロナウイルスの影響を受けての活動でありました。そうした中で、本日の答申を迎えられるまで、大変なご苦労だったと思います。改めて皆様に感謝の気持ちを伝えると同時に、皆様若者の力を実感しております。

本日報告をいただきました3つの提案につきましても、令和5年度、来年度の予算編成事業の中に組み込ませていただきます。今後、新城市全体の事業と予算を調整し、来年の3月には新城市議会に予算案として提案をいたします。そして、その予算は議会で審議されまして、議決をいただければ、お認めいただければ、来年度から事業を実施していくという流れになっています。そのためにも、私ども執行部は皆様のご提案を正しく、正確に理解をし、また尊重し、丁寧に議会にも説明をして参りたいというふうに思っております。

結びになりますが、本日のこの日を迎えるまでに、市外委員の皆様、またメンターの皆様、何よりも皆様に温かく見守り、応援をいただいた家族や学校の先生、そして皆様の仲間、多くの方の支えがあったかと思えます。その皆様への感謝の気持ちを忘れずに、これからも活動に力を入れていってほしいと思っております。

皆様、本日は大変お疲れ様でした。ありがとうございました。

○瀬野和奏議長 ありがとうございます。無事に市長答申がおわり、ほっとしています。今回答申した3つの事業が実を結ぶよう願っています。委員の皆さん、より一層気を引き締めて今後の委員会も頑張っていきましょう。

これもちまして、第10回新城市若者議

会市長報告を閉会させていただきます。

閉 会 午後7時50分